

# 津久井やまゆり園事件について その5

この事件について寄せられた意見・感想です。ぜひ最後までお読みください。そしてご意見をお聞かせください。

## 1) AFさん

相模原市の「津久井やまゆり園」で2016年7月に事件が発生してから、約1年半がたつ。事件に関する報道が近頃ではわずかになり、世間で風化してしまうのではないかと懸念している。

あらためて事件に関する新聞記事をざっと読んでみた。記事によると、事件の容疑者は「障害者はいなくなればいい」と警察に供述していたという。この発言は、言うまでもなく障害者の権利を否定し、侮蔑するものだ。現在は障害や疾患がなく「自分には関係ない」と考えている人であっても、明日交通事故に遭い、障害を負う可能性だってあるのだ。誰にとっても、無関係とは言えないはずであるのに、このような考えを持ってしまうことは、とても悲しい。

かくいう私も、障害のある方達とどう接すればよいか分からずにいた時期もあった。しかし、高校時代にユネスコ部の活動として、自閉症の子ども達を校舎に招いて交流活動を行ったことで、「障害に関係なく、一緒に遊べて楽しい。そして子ども達は可愛い」という感情が自然に芽生えた。そうすることで、障害者と触れ合うことに対し、余計な心配はほとんど無くなったと実感している。

障害者だけに限らず、人は「自分の近くにいない存在」や、「よく分からないもの」に対して、偏見を持ってしまう傾向があると感じる。職業や生まれた国や地域、文化に対してさえも。逆に言えば、近くにいて理解する機会さえあれば、差別や偏見はぐっと減るはずだ。

もし本当の意味で共生社会が実現し、誰にとっても生きやすい社会であったなら、このような事件が発生することはなかったかもしれない。

容疑者の発言から読み取れるような、「優生思想」に基づく差別や偏見を無くすためには、できれば幼い頃から障害について理解を深める体験を得ることが重要ではないかと思う。この事件を教訓にしていくために、教育現場や保育所などでは、障害者理解の取り組みを長期的な視点で強化していくべきではないだろうか。全員が普通学級で学ぶということは、すぐには難しくても、道徳や社会の授業などで、ノーマライゼーションを学ぶ機会を増やすことはできそうな気がする。

そして今私たち一人ひとりができること・・・事件を忘

れない、発信し続け、風化させないという気持ちを持ち続けたい。

## 2) AGさん

1月24日の新聞に犯人に二度目の精神鑑定をすることを決定したとの記事があった。1回目の鑑定で自己愛パーソナリティー障害とかいう結果が出たが責任能力はあるとして起訴された。起訴はされたがさっぱり公判が開かれなかったがここに来て二度目の精神鑑定と。

責任能力が疑わしいからだろうか？ あれだけの殺人を犯した者を責任能力なしとして罪を問わないと言うことがあり得るのか。とすれば19人の死の責任は誰が負うことになるのだろうか。

友人（福祉関係ではない）らとこの事について語り合ったことがある。「当然死刑だよ」「責任能力なしで無罪はあり得ないだろう」「死刑廃止論から犯人の死刑反対を主張できるか？」「殺さず罪を償わせるべきでは」「そんなことができるのか」……。いろんな意見がでたけど、もちろん結論などには至らなかった。

犯人のやったことはこの国の法律、この国の一般的な社会常識、この国の大多数が当然と思っていた心情ではなくれないことだったと思う。想定したこともない事件だった。思ってもいなかったことが起きた。人として理解できないこと、として。

でも、これがこの国の本当の姿なのかも知れない。犯人の行為に賛同する意見がネットにあふれた。外国人を殺せと言うデモが堂々で行われる。虐待・差別が後を絶たない。セクハラ記者をかばう文化人と政府。この国の外では合法的な殺人が後を絶たない。

だから私たちも福祉の狭い世界の中で、世の有様に合わせて、粛々と“仕事”をこなしていればいいのか。

そんなことはない、それでいいわけがない。

やまゆり園事件を起こした人物を生み出した“ふくし”、殺人を防ぐことのできなかった“フクシ”、家族の不安を杞憂だよと言えない“福祉”。そんな“フクシ”から福祉を目指したい。人が殺されることのない社会を目指す福祉、戦争を起こさせない福祉、誰もが虐待され差別されない社会を目指す福祉、ヘイトクライムをさせない福祉……。

誰もが普通に生きることを目指すなら、まず自分も普通に生きなければ。普通に生きるとは、人を人として認めること、おかしいことにはおかしいと声を上げること、見て見ぬふりをしないこと、気持ちを殺さないこと。だからやまゆり園の事件は決して忘れるわけにはいかない。